

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>◎「部活動の盛んな進学校」としての学校づくりの推進</p> <p>◎「質の高い教育活動」の推進による、生徒の自己管理能力の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習習慣の定着に向けた働きかけは、年間を通して行った。自立型学習への転換・確立のための働きかけが、今後も必要である。 ・「N」学びのノート」等を利用した学習ガイダンスは、教科の協力を得てより充実させることができた。 ・1年生での類型登録では、概ね適切な指導が行うことができた。今後も、個々に課題を持った生徒への支援を継続していく。 ・生徒指導面では、年間を通して落ち着いた状況であり、問題行動は前年よりも減少した。携帯電話着信などが数件発生した。 ・進路指導面では、進路指導部と学年部の連携を機能させ、実力テストや進路LHR等の実施について本校の進路指導の新しいスタイルを確立することができた。 ・日々の清掃活動を通じ、美化意識や公共心を養うことができた。ゴミの分別に関しては点検週間では意識の高揚が図れたが、日常の清掃活動では不十分な状況であったのが今後の課題である。 ・図書情報面は、読書活動の推進など概ね当初目標が達成できた。図書貸出冊数は減少傾向にあり、新しい企画を多く取り入れて生徒の読書量の増加を図る必要がある、また、蔵書のデータベース化や校内ネットワーク等の未達成分について、継続して進めていく必要がある。 ・今年度、全国大会出場者は増加した。入賞者の増加に向けて技術・体力づくりと意識の向上を図り、全国大会での活躍に繋げていきたい。 ・生徒の自己管理能力を育成する観点から、行事等の見直しを進めており、第2学年部での新しい研修旅行案が完成した。今後も新しい企画を進め、完成させていく必要がある。 ・ホームページの更新や学校公開等を通して、教育内容の情報発信はできた。今後、本校で学ぶ意欲を持った生徒を増加させるため、さらに広報の在り方について一層の工夫が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高いレベルでの「文武両道」を進める中で、学力、進路、部活動を保障する取り組みを行う。 ・授業規律を徹底するとともに、わかりやすい授業への工夫と、集団及び個々の生徒の課題に対応した教科指導を行う。 ・学習習慣を確立させるとともに、自ら学習することの楽しさと苦しさを体感させて、粘り強く目標に向かって努力する姿勢を養う。 ・「当たり前のことが当たり前」を基本とする生徒指導を通じて、規則正しい生活習慣と高い規範意識を育成する。 ・あらゆる教育活動を通じて、人としての在り方、生き方を考えさせることで進路選択能力の涵養を図る。 ・生活実態や学力実態の把握に努め、的確な分析・検討を行うことで、時期をとらえた指導と対策を講じて希望進路の実現を図る。 ・校内外の環境美化を進めて、美しく爽やかな学習環境の維持、向上に努め、学ぶ姿勢を確立させる。 ・部活動を奨励するとともに、ワンランク上の勝利目標を定め、チャンピオンスポーツを目指す。 ・本校で学ぶ意欲を持った生徒を獲得するため、「西城陽高校の良さ」を積極的に発信し、中学校等との連携を推進する。

A：十分達成できている B：ほぼ達成できている C：達成できているとはいえない D：ほとんど達成できていない

平成 22 年度 府立西城陽高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（年度末評価）

評価領域	重点目標	年度末評価	
		目標	領域
組織・運営	教育の質の向上を図るための学校経営計画の計画的・機能的な運用	A	A
	活力ある教育活動の推進	B	
教育課程	適切な類型選択指導	A	A
	新学習指導要領による教育課程の編成	B	
学習指導	学習習慣の確立と主体的な学習態度の育成	A	A
	自ら学ぶ意欲を持って日々の授業に取り組みさせる方策	A	
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	A	A
	道徳心の育成と規範意識や人権意識の確立	A	
	組織としての迅速な対応による問題行動の未然防止	A	
進路指導	生徒一人ひとりの進路目標の設定とその実現に向けての指導の充実	A	A
	生徒の進路に対するモチベーションアップを図るガイダンス機能の充実	A	
健康・安全教育	健康診断における全員受検の徹底と自己健康管理の啓蒙	A	A
	心の問題を抱える生徒等に対する教職員の対応力の向上	A	
	心身の発育・発達や性に関する内容について理解し、危険を回避する能力の育成	A	
	交通安全指導の推進	A	
学習環境	校内美化意識の確立と校内美化の維持	A	A
図書館運営	読書活動の推進	A	A
	図書館利用の充実	A	
研修	教職員の資質向上に向けた研修の充実と積極的参加の奨励	A	A
安全管理	学校の危機管理についての教職員間の共通理解	A	A
	施設・設備の安全管理の徹底	A	
魅力ある学校づくり	部活動の振興	A	A
	学校行事の活性化	A	
	広報活動の推進	A	
家庭・地域社会との連携	開かれた学校づくりの推進	A	A
	学校とPTAとの連携	B	

教科編

国語科

評価領域	重点目標	年度末評価	
		目標	領域
学習指導	家庭学習習慣の定着と質の高い学習の確立にむけた丁寧な指導の実施	A	A
	基礎学力の定着と進路実現に向けての学力の向上	A	
読書・表現指導	読書習慣の育成	A	A
	資料・文献を正しく活用する力の育成	B	
教科指導	教科指導力の向上	A	A

地歴公民科

評価領域	重点目標	年度末評価	
		目標	領域
学習指導	基礎・基本の確実な定着	A	A
	自ら学び自ら考える力の育成	B	
研究	教科指導方法の改善	A	A
研修	教科指導力の向上	B	B

数学科

評価領域	重点目標	年度末評価	
		目標	領域
学習指導	日々の計算演習の徹底による基礎基本の充実および生徒個々に応じた学力の伸長	A	A
	家庭学習習慣を身に付けさせる	B	
教科指導	教科指導力の向上	A	A

理科

評価領域	重点目標	年度末評価	
		目標	領域
学習指導	わかりやすく魅力ある授業展開と学力の向上を目指す	B	B
	希望進路の実現を図る	B	
教科指導	理工学に対する興味・関心の高揚を図る	A	A
研究・研修	教科指導力を高める	B	B

保健体育科

評価領域	重点目標	年度末評価	
		目標	領域
学習指導	〈体育〉筋力・持久力の向上	A	A
	〈体育理論〉科学的・理論的に運動に取り組む姿勢の育成	A	
	〈保健〉 ・基礎知識を身に付ける ・健康課題を具体的にとらえ解決策を考える力をつける 1年：現代社会と健康 2年：生涯を通じる健康 社会生活と健康	A	A
安全管理	事故防止	A	A

芸術科

評価領域	重点目標	年度末評価	
		目標	領域
学習指導	積極的に取り組み、表現力を伸ばす	A	A

英語科

評価領域	重点目標	年度末評価	
		目標	領域
学習指導	基礎学力の定着	A	A
	家庭学習習慣の定着と進路保障に向けた学力向上	A	
教科指導	教科指導力の向上	A	A

家庭科

評価領域	重点目標	年度末評価	
		目標	領域
学習指導	自らの家庭生活をよりよくするために必要な知識と実践力の育成を図る	A	A
教科指導	教科指導力の向上	B	B

情報科

評価領域	重点目標	年度末評価	
		目標	領域
学習指導	情報活用の実践力の養成	B	B
	情報社会に参画する態度の養成	B	
教科指導	教科指導力の向上	B	B

<p>次年度への改善の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育課程特例校として、3年間が経過した。類型登録指導では、生徒に進路に対する意識付けを行いながら、3年生時を視野に入れた選択ができるようになってきた。しかし、今後さらに教職員全体の共通理解を深め、学習指導面で各コースの特徴をさらに明確にしつつ、希望進路の実現の裏付けとなる教育課程の編成等の課題点の改善を行う必要がある。 ・ 1年時における「初期指導」は「N」学びのノート」等を利用した学習ガイダンス等の充実により、高校生として学習態度を育成するという点において、成果を上げている。 ・ 家庭学習習慣の定着や自立的な学習態度の育成のためのはたらきかけを、年間を通して行った。しかし、まだまだ充分とは言えず、今後、授業内容や指導のあり方など、さらなる工夫が求められる。 ・ 生徒指導面では、年間を通して落ち着いた状況であり、校門での遅刻生徒も前年よりも大きく減少し、3年間皆勤者も大幅に増加した。 ・ 早期から自己の将来を見つめさせ、学ぶことの意義やおもしろさに気づかせる働きかけの重要性から、各教科においても、「進路と出会う」授業展開や自立的な学習態度を育てる指導の在り方など、さらに工夫することが必要である。 ・ 進路指導面では、個人面談等を通して実力テストに対する意識付け等を行ったが、今後さらに、「N」学びのカルテ」等を活用し、生徒に自己の学習到達点を継続的に把握させて、自主的な学習態度を育てていく必要がある。 ・ 日々の清掃や月例大掃除の指導を通して、生徒の美化意識の向上や公共心を養うことができた。清掃点検やゴミ分別点検により、担任も含めて意識の高揚に努めることができた。 ・ 部活動の奨励という目標は、加入率が77.4%とここ数年で増加傾向にあり、達成できていると言えるが、一人ひとりの生徒が部活動と勉強との両立ができるように、一定の家庭学習時間の確保など、さらなる環境整備が必要である。 ・ 今年度広報活動体制の見直しを行い、組織的な形で情報発信ができたことは大きな成果である。今後、本校で学ぶ意欲を持った生徒を増加させるため、より効果的な発信の仕方を工夫する必要がある。
--------------------	--